第1回小山市こどもラウンドテーブル アンケート結果

開催日 令和7年9月15日（月・祝）

回答者数

単位[人]

	全体	内訳		
		ぷち テーブル	傍聴	不明
参加者数	58	42	16	0
回答者数	40	33	6	1
回答割合	69.0%	78.6%	37.5%	

回答内訳詳細　単位[人]

	オンライン	回答用紙	総計
ぷちテーブル	14	19	33
傍聴	0	6	6
不明	0	1	1
合計	14	26	40

問1 全体の満足度

	回答者数	割合
とても満足	9	22.5%
まあ満足	25	62.5%
あまり満足ではない	5	12.5%
満足ではない	1	2.5%
未回答	0	0.0%
総計	40	100%

問2 満足度の理由や感想

〇ぷちテーブルについて

【良い点】

・テーマについての話し合いはとても勉強になり、有意義な時間で、他の団体とつながれるきっかけになった。
・色々な意見が聞けて勉強になった。行政側との交流もあればよかった。
・たくさんの人の意見や、色々な視点に触れることができて勉強になった。
・とても良い話し合いができていた。
・初めて会う方々と活発な意見交換ができた。
・こどもをど真ん中にした話ができたので良かった。また、新たなつながりもできて良かった。

【改善点】

①時間配分について

・話し合いの時間の設定が短い。せっかくの考えや思いが、深まりが持てず残念。
・他グループとの交流時間を、グループの話し合いの時間にした方が良かった。
・総まとめ、発表の時間がもう少し欲しかった。
・アイディアは面白いが、時間が短く中途半端だった。
・事前にぷちテーブルの内容を知らせて、当日までに考えるられると良かった。
・展開が早くそのテンポについていくのが大変だった。

②発表について

・発表は各テーブルにいるファシリテーターがしたほうがよい。整理してまとめて、発表するのは技術がいる。

③内容について（テーマ、目的・目標など）

・問題のテーマが散漫すぎているので、考えにくかった。
・テーマが大きすぎると深い話ができない。もっと細かいテーマにしたほうが良い。

・目的・目標を明確にした上でワークを実施したほうが良い。
・誰がどのように何をするのかまで話をしていないので理想論で終わってしまった。
・課題解決手法、アプローチ方法などを取り入れるとワークしやすくなる。参考事例を展開してもらえると良い。

④その他
・こどもの声ではなく大人が考えた「こどもの声」だと感じた（大人視点のこどもの声）。
・テーマに対して市や教育委員会はどのように工夫しているのか情報として言って欲しかった。
・参加者同士が交流できる時間が少ないと感じた。
・特定の方が話す場面があり、あまり興味が沸かなかった。参考になる例はなかった。

〇全体について
【良い点】
①ラウンドテーブルについて
・少しずつラウンドテーブルの姿が見えつつあると感じた。今後に期待!!
・ラウンドテーブルの役割の方向と可能性を感じた。
・基本的にはとても満足。話し合った結果を今後どう活かすか（検討していくか）見えにくい部分があった。
・大人がこどもの立場や困っている人のことを考え、どうするか、何ができるかなどを考えさせられる、とても勉強になる会だった。
・様々な立場で、それぞれのテーマに真剣に向き合い、話し合いが深まっていく様子に、これからの小山のこども達の育ちを支えるシステム作りができるであろうと期待している。行政と民間で力を合わせることのプラスは大きいが、課題もまだまだありそう。それらを１つ１つ吟味しながら進んでいけるような事業として発展していくことを祈っている。
・参加者が自分の意見を積極的に伝えており、プレイベントから更に盛り上がっていた。事務局の運営もとても良かった。男性の参加がもう少し増えると良い。（教員とか）

②つながりについて
・団体同士や個人でのつながりが持てた。つながりを持つことで、より色々な支援や手助けしたい人に届く道筋ができたように思う。
・支援をしている人やしたい人が一同に集まって話し合う機会はないため、ラウンドテーブルの場はとても良い。考えることはたくさんあるが、色々な人と話し合い、対話し、考える場はすごく面白くワクワクする。
・まだつながったことのない方や団体と知り合えた。
・こどもたちのために自ら動こうとしている人々と出会い、エネルギーをもらえたことが、何よりの学びとなった。

【改善点】
①ラウンドテーブルについて
・今日話し合った内容をどう落とし込むのか、今後の流れを知りたい。
・「こども委員会」を実行してほしい
・大人の新たな学びが必要（こども感の再考）
・今日の内容が、困難を抱えているこども達に届いて欲しい。こども達の成長のスピードは早いので、実行可能な施策を公民連携で創設して欲しい。
・こどもと向き合う教育関係の方達にこうしたワークをして欲しい
・こどもラウンドテーブルなのにこどもがいない。

②情報共有について
・参加団体の活動内容を知らないところがあったのでリーフレット等あれば欲しかった。
・参加者の皆さんと情報交換が出来ると思い参加しましたが残念でした
・参加者の活動内容についてもっと聞きたかった。
・会議室だけでの話し合いだけでなく、アフターがあるともっといい。ラウンドテーブルを点にしない。

問3 他団体との連携やラウンドテーブルによる課題解決の可能性を感じさせる内容だったか？

	回答者数	割合
そう思う	12	30.0%
まあそう思う	19	47.5%
あまりそう思わない	6	15.0%
思わない	2	5.0%
無記入	1	2.5%
総計	40	100%

問4 引き続きラウンドテーブルへ参加したいと思うか？

	回答者数	割合
そう思う	25	62.5%
まあそう思う	12	30.0%
あまりそう思わない	1	2.5%
思わない	1	2.5%
無記入	1	2.5%
総計	40	100%

問5 自由記入欄

① ラウンドテーブルについて

・女性の参加が多いが、子育ては父親、母親が一緒にするべきもの。父親の参加を促せるといい。

・実際の不登校のこどもを呼んで欲しい（小学生とかでもいい）。せっかく凄い人達が集まっているのに、高校の授業みたいな感じだった。一部の人が SNS を過信しすぎている。こどもをこども扱いして欲しい。男性が少なかった。次回が楽しみ。

・民生・児童委員の関わりと学校運営協議会（コミュニティスクール）の活用をもっと進められると良い。

・行政、民間フィフティフィフティ

・行政 学校などと情報交換をし 本当に困っているこども達の役に立ちたい。

・こどもを真ん中に考える時には必ず“親“の存在があるが、「ワークショップまとめ」資料には“親“が登場していない。実際、親も困ったり、悩んでいる人がたくさんいる。親の立ち位置がどうなのか気になった。

・こどもと多くの時間を過ごす保育園・幼稚園、小中学校などの先生は、こどもを真ん中に現状の問題点やこどもの想いなどを感じている重要な存在である。そういう方が、このような場所で安心して現場の声を発信し、こどもたちのためにできることを話し合い、一つ一つ問題解決して行けるしくみを作って欲しい。

・意見をどう落とし込むかが重要。（「〇〇やって行かなきゃいけないと感じました」ではなく、そのためにどうするかというところまで決めて、実行していく。（やってみてダメならやり直す））

・各団体の取り組みを知りたい。それぞれの団体や活動で、具体的に聞こえてきたこどもや保護者の声にどんなものがあるのか聞きたかった。

② こどもについて

・こどもの意見を聞くとは、大人が聞く耳を持つこと。こどもも1人の人間。

・地球の宝、「こども」の育ちを支えるために、大人ももっと学び一緒に成長していくことがとても必要。

・こどもも 1 人の人格を持つ人であり、主権者であり、市民であり、正当に声を聴かれるべき存在という認識(子どもの権利条約の中身)が市民全体に広がる事と、「声」がまちづくりに反映される仕組みづくりが進んで欲しい。

・こどもの声を「きく」には、日頃からの信頼関係が大切。大人が多様な対応ができるように大人同士も「お互いの声」をよく「きく」スキルを向上する必要がある。こどもたちが、活躍できる場を創ることも大切。

・声に出せない人（例えば、普通に学校に行っていて一見問題なく見える子が、実は苦しんでいる）にも目を向けてほしい。現状に直面している人の声がちゃんと反映されているのかいつも疑問に思う。

③　その他

・小山市の行政は素晴らしい。自分たちが信頼できる範囲で動いた方が楽なこともたくさんあるが、民間の声を拾うためにあえて門戸を開いたこと感謝している。また、コアメンバーも進行がスムーズにいくよう声かけをしてくれ有意義な時間が過ごせた。

・本当にこどもをまんなかに考えられる幅広い方（偏りのない）にこども・子育てフォーラムの運営委員になっていただきたい。

・情報はあっても悩んでいる本人が受け入れない事には問題解決にはならない。情報は個人情報で止められているが、個人情報への理解が解決しない限り無理。